

北インド前期中等教育機関におけるひらがなの導入と定着の方法 ーヒンディー語に基づいた連想法を用いたひらがな教材の開発に向けてー

井元麻美(立命館大学)・目黒裕将(エイム奈良国際アカデミー)
india.hiragana@gmail.com



phukna
ろうそくを
吹き消す

1. はじめに

目的：北インドの前期中等教育機関のインド人日本語教師がひらがな導入の際、どのように授業を行っているのかを明らかにする。

2. 先行研究と課題

- 学習者の母語に基づいた連想法の教材作成について（カッケンブッシュ2017、プラパーほか2012など）
→教材作成をするにあたり、どのようにひらがなの導入が行われているかという研究は管見の限りない。
- 初中等教育機関のインド人日本語教師を対象とした実践報告（竹村2013、徳間・高柳2015）
→インドの日本語教育の現状を探るような研究や日本語学習者を対象とした研究は管見の限りない。

3. 調査方法

表1 調査対象者

対象者	性別	教師歴	実施日	インタビュー時間
A	女性	18年	2022年8月5日	36分 34秒
B	女性	17年	2022年8月12日	42分
C	女性	15年	2022年8月5日	21分
D	女性	15年	2022年8月4日	22分 15秒
E	女性	10年	2022年8月4日	31分
F	女性	17年	2022年8月8日	28分 17秒

表2 インタビュー項目

質問番号	質問内容
質問1	氏名、学校名、教師歴
質問2	ひらがな導入をしているクラスの数
質問3	教室の設備
質問4	ひらがなを導入するときの教材
質問5	ひらがなの導入のときの教える順番や内容
質問6	ひらがなの導入をしているときの工夫点
質問7	ひらがなの形や音を覚えるための活動
質問8	ひらがなの形や音を覚える活動のための教具
質問9	「つ」「を」「ん」の指導方法

分析方法

- 手順 内容
- ① インタビューの音声文字化
 - ② テキストマイニング (KH Coder (Ver. 3.Beta.07c))
 - ③ 共起ネットワークとコンコードダンスから、インド人日本語教師のひらがな導入について分析

4. 結果と考察

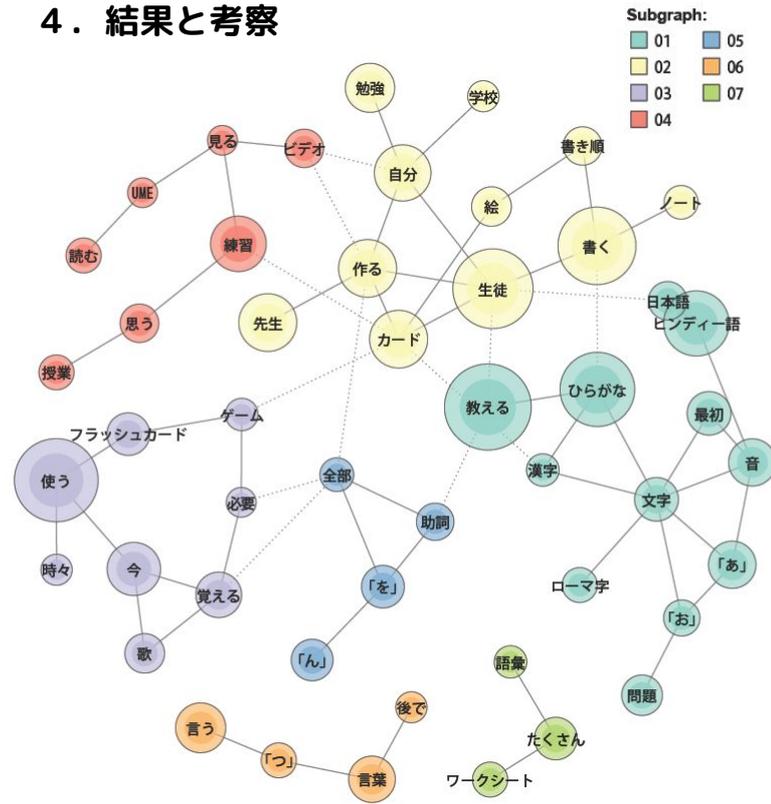


図1 頻出語の共起ネットワーク

表3 グループごとの共起語とグループに見られる導入と定着の方法

グループ	共起語	ひらがなの導入と定着の方法
01	教える、ひらがな、ヒンディー語、「あ」、音、最初、文字、問題、日本語、「お」、ローマ字、漢字	【導入】ひらがな導入の第一段階で日本語とヒンディー語(音)の共通点を説明 「『あ』ヒンディー語もあります。『か』ヒンディー語もあります。英語じゃない。だからいつも教えるとき、ヒンディー語と日本語はいつもミックスして。」
02	生徒、書く、カード、作る、先生、自分、勉強、絵、書き順、ノート、学校	【定着】文字(音・字形)の定着のための活動、教材作成 「私は最初は、ヒンディー語のノートじゃなくて数学のノートで書きます。」
03	使う、今、覚える、フラッシュカード、歌、ゲーム、時々、必要	【定着】字形と音を一致させる活動 「後で練習、練習のために、フラッシュカードで覚えながら勉強します。」
04	練習、ビデオ、思う、授業、読む、UME、見る	【定着】教師が思っているよい練習方法 「生徒たちに、初めに毎日練習をすることが必要だと思います。これをいつも私達は生徒に言います。」
05	「を」、「ん」、助詞、全部	【導入】「を」と「ん」の教え方 「『を』は、助詞として教えます。」「『ん』はヒンディー語の『ん』に当たる字を見せて、発音させて、日本語の『ん』と同じ音だと教えます。」
06	言う、言葉、「つ」、後で	【導入】「つ」とことばを導入するタイミング 「『つくえ』のヒンディー語を書いて、日本語で書きます。」
07	たくさん、ワークシート、語彙	【定着】ワークシートを用いた反復練習 「夏休みにたくさんのワークシートあげました。」

5. まとめと今後の課題

まとめ：インドの前期中等教育機関に所属するインド人日本語教師が生徒のために工夫している導入方法や練習が明らかになった。
今後：ヒンディー語に基づいた連想法の教材を作成する際の助一助となろう。